

2月 例会 個人 山行報告書		報告者	江頭孝治	参加 メンバー	CL; 亀山 誠、江頭 孝治、竹内 幹雄、松中 真理子、山田 明
		報告日	3月1日		
山域	中ア	山行日	06年 2月 25日(土) ~		
山名	御岳山		06年 2月 26日(日)		

山行目的	雪の御岳を楽しむ	コースタイム(天候: 天気図記号)
------	----------	-------------------

配布先 集会: 10 山行: 1 リーダー 原紙: 集会担当者	ルート図(地図を見て正確に) 剣ヶ峰(3068m)		2月25日快晴	2月26日雪 雨
	 <p>2.5万分の1地図: 御岳山</p>		7:50 本社P発 11:15 スキ-場P着 11:40 スキ-場P発 12:00 ゴンドラ山頂駅発 12:50 7合目大鳥居着 13:40 8合目着 14:50 9合目下着 15:20 9合目上ア7ヶ 16:20 王滝頂上着 18:00 夕食 21:00 就寝	3:30 起床 4:30 朝食 6:30 王滝頂上発 8:30 7合目大鳥居着 9:50 ゴンドラ山頂駅着 11:15 スキ-場P着 記録無 温泉 記録無 本社部室 記録無 本社P解散

<山行報告>

0:00。目が覚めた。再び寝付くことが難しく感じる。'明日朝一番で剣ヶ峰をピストン' コイツは難しいのではないかと。風で周期的にテントが叩かれる。入山前の天気予報は今日の悪天を予見していたが、昨日、富士山まで見通せた晴天が一夜を待たずして急変した。晴天について王滝頂上まで詰めて幕営、星空の下、鍋を囲んで就寝したのは3時間前。明るくなったところで下山するしか...少しでも眠ろうとする。3:00。亀山CLのランプが点灯した。各メンバーも寝付けないだろうことを思われてと思う。予定より1時間早い起床、果たして下山の決定をメンバーに告げられた。朝食を済ませ、黎明を待つ間にも2.5万分の1の確認を何度かされる。明るくなるとともに行動開始、テントを全員で協力して撤収、松中さんを亀山CLがanseilen、他メンバーは各自が十分気合を入れて行動するように注意が出る。外の風に当たるとすぐさまヤッケが白くなる。ゴーグルも内側から凍りつき、用を成さない。江頭先頭を告げられたが、ルートファインディングに自信がない、その旨を告げる。隊列は亀山-松中-江頭-竹内-山田と決まる。「行くぞ。」亀山CLの大声が出、全員がそれに答えた。王滝頂上の鳥居を出て、吹きさらしの斜面に対峙すると、はるか烈風と雪で目が開かない。常に腰を落とさなければ前に踏み出せないような圧力を受けながら、5人1列に進む。まもなく最初の人工物、夏道のワイヤー柵が目にとまる。ありがたいことに埋まっていた。だが踏み後はなくなっていた。この先どうなるのか判らず、緊張する。亀山CLは利かない視界の中、少し下っては可能な限り地形を見渡され、また下る。こちらは心配が先に立ち、何度もルートに関して口出しをしてしまう。これをあらかじめ承知されているかのように、冷静に受け答えしてもら。神の仕業か? 猛吹雪を何とか進んで、我慢できなくなりそうな頃、登ったときと逆の順にロープ柵、石碑、社と亀山CLに導かれる。ありがたかった。2時間後、5人無事で7合目、大鳥居の下でアイゼンを収める。ピッケルのシャフトが結氷し、ひと周り太くなっていたのに気づいたのはゴンドラ駅で大休止の時。



好天に恵まれた2/25 王滝頂上直下に行く。

<リーダー所見>

翌日の昼頃からの荒天を予測し、王滝頂上へテントを上げたが、予想以上に天候の悪化が早く、登頂を断念し、少々厳しい状況下でのテント撤収・下山となった。初日の好天、翌日の荒天、楽しい山と厳しい山の両方を一度に味わえ、幸運な山行だったのでは? と考える。次回(4度目)こそはと頂上へ立ちます!

確認  
(リーダー)

**亀山**  
06.03.01

確認  
(リーダー)

**江頭**  
06/03/01